

セラミックス岡山 CERAMICS OKAYAMA

OKAYAMACERAMICS CENTER

(岡山セラミックスセンター)



財団の主な活動内容について

一般財団法人岡山セラミックス技術振興財団

理事長 河本泰輔

今年3月に岡山県庁を退職し、7月1日に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、当財団の運営に当たりましては、平素から格別のご理解とご協力を賜っており、心から感謝申し上げます。

岡山セラミックスセンターは、国内唯一の耐火物に関する公的研究機関であり、当財団はその指定管理者として、耐火物評価技術の研究開発や共同・受託研究等の物づくり、様々な機器を活用しての高精度な評価（分析・測定）、専門書籍の発行や各種セミナーの開催による人材育成などを通じて、耐火物及びその関連産業の支援を行っています。

今回の「セラミックス岡山」の発行に当たり、当財団における現在の主な活動内容についてご紹介させていただきます。

まず、物づくりにおける研究開発では、今年度から「脱炭素・循環型社会の構築を目指した耐火材料の研究開発」を大きなテーマに掲げています。そのため、製鉄プロセスの水素還元製鉄技術の開発に伴い、水素雰囲気下における熱間での耐火物原料と水素との反応性評価や室温における水素ガスを用いた通気率測定など実施し、評価結果のデータベース化を図るとともに、広く情報提供を行っていくこととしています。

また、新評価技術の確立では、超高速加熱装置による熱伝導率測定技術やチタンなどの非鉄金属とれんがとの濡れ角測定技術の確立を進めています。さらに、粘土質れんがの暴露試験による反応性評価として、従来から行っているCOガスに水素ガスを加えた混合ガスによる影響評価に取り組んでいます。

測定・分析機能の充実では、例年1万件を超える依頼分析を行っているところであり、引き続き企業等の依頼に応えるため、効率化と高精度化を図りながら的確なデータ提供に努めてまいります。また、今年も10月に分析機能紹介セミナーを開催し、当財団が新規に購入した装置の紹介や見学会を実施することで、企業等からの依頼件数の増加に努めているところです。

人材育成については、従来から実施している耐火物技術に係る初級、中級セミナーについて、昨年度の実績をもとに最新事例の紹介等内容の一層の充実を図るとともに、年間を通じた開催時期の調整を行うなど、受講しやすい環境整備に努めています。今年度は新たな取組みとして、8月に耐火物技術協会中国四国支部との共催により、AI技術の活用など省力化・エネルギーコスト削減に関連する講習会を開催いたしました。

引き続き当財団の業務内容の一層の周知を図るため、この「セラミックス岡山」の発行をはじめ、ホームページの充実やメールマガジンなどSNSの活用による情報発信を積極的に行うことで、岡山セラミックスセンター及び当財団の理解促進に努めてまいります。

皆様方には、引き続き、当財団を積極的にご利用いただくとともに、ご支援賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。